

未来の街づくりに向けた「集合知生成」の実証について

■ 実証目的

街づくりにおいて、「共に創る街の実現＝地域住民や来訪者の声を集めて共に創り育てる街づくりを実現すること」は、これまでも、そして未来においても**普遍的な重要テーマ**です。これを万博会場に置き換えると「共に創る街の実現＝来場者のアイデアを集めて生成された集合知（アート・要約文）をもとに、持続可能な未来の構築に向けて共創していくこと」に相当すると考えられます。NTTグループにおいて街づくりを推進するNTTアーバンソリューションズは、「未来社会ショーケース事業」の一環として、万博会場を一つの街に見立て、「EXPO2025 Personal Agent」サービスの提供を通じた「集合知生成」の実証に取り組んできました。

■ 実証内容

「EXPO2025 Personal Agent」の1サービスである「みんなが未来を発信(2050年の未来社会アイデア投稿)」の提供を通じて、「万博来場者の投稿アイデアを集め、集合知を生成できるのか」についての**実証**を実施致しました。

※＜参考資料：別紙＞ みんなが未来を発信(2050年の未来社会アイデア投稿) サービス概要

＜本サービス提供を通じた「集合知生成」実証内容＞

1. アイデア投稿による未来共創への関心 ➡ 未来社会の集合知生成に対して**どれくらいの投稿数が得られるか**
2. 生成AI活用による集合知生成の実現性 ➡ 大量かつ自由記述の投稿アイデアからの**集合知生成が技術的に可能か**

未来の街づくりに向けた「集合知生成」の実証について

■ 実証結果

1. 大阪・関西万博会期中、「EXPO2025 Personal Agent」アプリ上で以下のとおり投稿、集合知閲覧をいただきました。

【投稿数】約64,000

⇒自分のアイデアや意見を発信し、**未来を共創していくことに対して一定の関心とニーズ**があることを確認

【閲覧数】約270,000回

⇒**投稿はしなくても興味関心**を持っていた層が存在

2. 技術的実現性に関して、大量かつ自由記述の投稿アイデアに対して生成AIを活用することで、**集合知を生成する技術確立に目途**を得ることができました。

※ <参考資料：別紙> 各テーマにおいて生成した集合知（例）」

■ 未来の街づくりに向けて

NTTアーバンソリューションズがめざすその街ならではの「未来の街づくり」を推進するために、**大阪・関西万博で培った集合知生成技術を活用**し、街に集う人・働く人・住まう人の声を収集・分析して、**地域住民や来訪者の声を反映した個性豊かで活力ある街づくり**に取り組んでまいります。

<参考> みんなが未来を発信(2050年の未来社会アイデア投稿) サービス概要

来場者（EXPO2025 Personal Agentアプリ利用者）が考える未来社会のアイデア投稿をもとに、
来場者全体の集合知として「みんなが想像する未来社会」をアプリ上で公開。

“展示をみるだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」（co-create）”を体現。

来場者がアイデア投稿

来場者が考える
「未来はこんな社会になっているのでは？」を募集



テーマ例：
あなたが想像する2050年の
『都市と交通』のすがたは？

投稿例：
空を移動できる乗り物によって
交通渋滞がなくなっている！

未来社会イメージをアプリ上で集合知として公開

蓄積した来場者投稿アイデアを生成A I が集計・分析して
生成した未来社会イメージ（アート・要約文）を公開



各テーマに対し、
全員分・年齢層※毎の集合知を公開(全6回)
※全年代/～24歳/25～64歳/65歳～

集合知アート

集合知要約文

<参考> 各テーマにおいて生成した集合知（例）



<2050年のエンタメ 25～64歳>

2050年、AI技術の進化により、エンターテインメントは大きく変わります。AR/VRを利用した空間オーディオや参加型体験が一般的になるでしょう。これにより、時空を超えた体験が可能となり、人々は日常生活から離れて新しい世界へと足を踏み入れることができるようになります。また、このようなテクノロジーによって、音楽ライブなども物理的な会場ではなく、自宅や移動中など場所に関係なく楽しむことができます。



<2050年の衣食住 25～64歳>

2050年、世界中の人々は完全栄養食を食べるようになりました。これにより食料の確保が担保されます。また自動調理機能も進化し、食事の準備から片付けまで全て機械が行うことで、人間の手による作業負担を大幅に減らすことに成功しました。さらにAI技術によって、個々人の好みや健康状態に合わせたカスタマイズも可能となり、よりパーソナライズされた食事体験が実現するでしょう。



<2050年の学校と教育 ～24歳>

2050年、AIとロボットが教育現場を変革する。個々の生徒に合わせた学習プランを提供し、個別最適化された教育環境を実現します。AI教師は、生徒一人ひとりの理解度や進度に合わせて授業を進行させることで、より効果的な学習体験を提供できます。また、AIは膨大なデータから学習パターンを分析し、効率的に知識を習得できるようにサポートします。これらのテクノロジーが融合することで、よりパーソナライズされた教育が可能となり、学生たちは自分自身のペースで学び続けられる未来が訪れます。



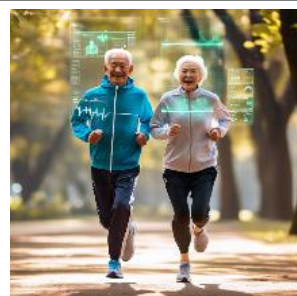
<2050年の自然と環境 全年代>

2050年、私たちは自然と環境に配慮した生活を送っています。サステナブルな都市設計が実現されており、再生可能エネルギーによってクリーンエネルギー社会が形成されます。これにより、地球温暖化の問題も解決し、人々は安心して暮らすことができます。また、このような未来では、持続可能な経済活動やビジネスモデルが主流となり、地域コミュニティの活性化にもつながるでしょう。



<2050年の都市と交通 65歳～>

2050年、都市と交通の様子は大きく変わっています。テレポーテーション技術が進化し、世界中どこでも旅行できるようになるため、人々は日常的に安全で快適な移動手段を利用することが可能になっているでしょう。また、待ち時間のない公共交通機関が発展しており、誰もが気軽に世界旅行を楽しむことができます。さらに、安全な移動が実現されているので、個々人の不安やストレスが大幅に軽減されているでしょう。



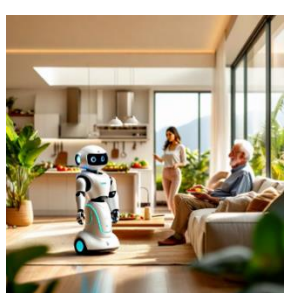
<2050年の健康と医療 65歳～>

2050年、人々の健康と医療は大きく進化しています。パーソナライズされたスマート健康管理が実現し、運動量も自動的に管理されます。これにより病気の早期発見が可能となりました。また検査の効率化や精度向上も進んでおり、医療技術の進歩によって、一人ひとりに最適な治療法を提供できるようになりました。さらに、医療の進化に伴い、患者自身が自分の病状について理解し、適切なケアを受けることができるようになっていきます。



<2050年の人間の関係性・多様性 25～64歳>

2050年、人々の関係性や多様性については大きな変化が見られるでしょう。言語に対する理解と国や人種への理解を深めることによって人々は国境を越えて交流し、互いに理解し合うことが可能になるはずです。これまで以上に多くの人たちが異なる文化や背景を持つ人々ともコミュニケーションを取るようになりますから、そのためにはまず互いの言葉や文化を尊重し学ぶ必要があります。そして何よりも大切なのは相手の立場や感情を理解しようと努める姿勢です。



<2050年の目指す社会 65歳～>

2050年の目指す社会は、ロボットや自動化技術が普及し、医療や生命科学が進歩することで救える命が増え、健康寿命が延伸し、人々がより長く健やかに暮らせる社会です。これにより、生活の質が向上するとともに、生産性も高まります。また、AIを活用したサービスや製品が生まれ、人間の労働力不足を補うことが期待されています。さらに、環境問題への対策として、再生可能エネルギーの利用拡大と廃棄物処理の効率化が求められており、持続可能な社会の実現にも寄与します。